



被災地に向かう高知応援隊のメンバー
(高知龍馬空港)

本県食材で被災地元気に

鳴子踊りも披露 応援隊 宮城へ出発

東日本大震災の被災地を激励しようと、有志らが結成したボランティア団体「宮城県を元気にする高知応援隊」が17日朝、宮城県に向けて出発。2泊3日の日程で、本県の食材を使った炊き出しや、よさこい鳴子踊りを通して被災地を元気づける。

先月、高知市内で宮城県議らを招いて震災支援フォーラムを開催した高知市の会社社長、宮地貴嗣さん(43)らが「実際に現地を見

ないと分からないことがある」と、応援隊を結成。20〜60代の56人が被災地で、ボランティア活動を行うことにした。

大きな被害を受けた仙台市や東松島市など

の視察も予定。宮地さんは「高知らしい支援という二つの使命がある」と思っている。現地の人たちとの交流も積

極的に図る」と話していた。

(大山泰志)